

## アジアフォーラム報告

行事幹事 水木 純一郎 (日本原子力研究所関西研究所)

アジアフォーラムは、アジアの国々で稼働している、あるいは建設されている各施設間の情報を交換することにより、将来の共同研究、共同利用実験、国際協力等がスムーズに行われることを目的として1994年に神戸で第一回目が行われ、第二回目が1995年に韓国で開催された。

今回は、第3回目ということもあり、これまでのような施設報告を中心とするだけでなく、共同研究、協力研究を行うにはどのような壁があり、またそれを低くするための具体的な方策を議論することを計画した。これらを背景に放射光学会長上坪氏、東大理学部太田氏を Chair persons として JASRI と日本放射光学会の共同主催で SRI '97の最終日(8日)に SPring-8 で参加者を“拉致”する形で始められた。

参加者の国籍は、中国、韓国、タイ、ブラジル、オーストラリア、インド、スリランカ、台湾(政治的なことは抜きにしましょう)、そして日本で、参加者は総勢40名であった。8日は、夕方から Welcome Party を催しそれぞれの親睦を深めることから始めることにした。ここで早速 SPring-8 の良さが発揮された。御存知のように8月1日に街開きがあったとはいえ SPring-8 からは数キロ離れたところにしか数件の店しかない。二次会は全員研究交流施設、いわゆるゲストハウスのホールに集まることになり、最後の人達は夜中の12時を過ぎていたようであった。これでかなりお互いが打ち解けたようである。共同研究、国際協力研究はなんのことはない、こんなところから始まるのではないだろうか、と思わせる

ほど和気あいあいとしたものであった。

アジアフォーラムの本番は、9日8時45分から、新しく出来たばかりの中央管理棟の会議室で行われた。上坪放射光学会長 opening address から始められ、昼休みを挟み15:00まで15施設からの報告があった。当初は、この報告のなかに共同研究、国際協力に関して触れてもらおうと目論んでいたのであるが、一人15分しか持ち時間が無く、殆ど施設の紹介、計画の紹介で精一杯のようであった。午後、後半のパネルディスカッションで上記論点に関して意見を述べてもらった。まだまだ、アメリカやヨーロッパの放射光施設に比べて、アジアの各施設の情報が一般に取りにくいこと、何を計画するにも資金が必要なこと、その資金を確保するための方法などが話された。この中で、広島大学の谷口氏が、広島大学の外国人学生受け入れ計画を話され、積極的に外国人を受け入れる制度が出来つつあることを実績を示しながら話された。本フォーラムの前に上坪学会長と話し合い、日本の各施設として共通に提案出来ることを探そうとしたのであるが、各施設、大学によって事情がまちまちであり、広島大学のようにそれぞれが出来ることを提案していくことが重要なようである。しかし、今回のフォーラムを前にして、放射光学会会長、及び行事委員で話し合い、アジア各施設のビームラインハンドブックを作ることを提案しようということになり、行事委員である八木直人氏からそのことの提案をしていただいた。これがことのほか皆さんの賛同、支持を受けた。これから具体的な作業に入らねばならない

が、ハンドブックの性格上、放射光学会が中心になって編集、出版まで責任を持つべきかなー、と考えている。上坪会長、各幹事、行事委員とも話し合い進めていきたい。アジア間での国際協力研究をすすめるためには、このような研究者の奉仕による地道な努力も政治的な働きに加えて必要ではなかろうか。最後に本フォーラムの chairperson の一人である東大の太田氏によって closing remarks がなされ、今後もアジア間での情報交換、本フォーラムの重要性を説かれ17:00に無事閉会となった。

今回のアジアフォーラムが、共同研究、国際協力研究の地道な前進となったと信じて今後も続けられていくことを望む次第である。

本フォーラムの開催に努力していただいた放射

光学会行事委員の方々は、尾嶋正治氏(東大工)、木村昭夫氏(物性研)、杉山宗弘氏(NTT基礎研)、鈴木昌世氏(JASRI)、福井一俊氏(福井大工)、八木直人氏(JASRI)である。上記委員の他に今回のフォーラムは、日本放射光学会、及びJASRIの資金、人資源の提供のもと無事に終える事ができ、学会事務局の西野さん、貞安さん、JASRIの岡田さん、松平さん、横溝さん、飯野さん、山下さんに感謝してこの報告書を終わります。

P.S. 本報告書は、JASRIが発行する「Spring-8利用者情報」誌の「アジアフォーラムの報告」とほぼ内容が同じであることをご容赦願いたい。(両方とも水木が文責)

## ◁SRI '97サテライト会議報告▷

# 第2回 SPring-8 国際ワークショップ「30 m 長直線部」 開催報告 (SPring-8 International Workshop on 30 m Long Straight Sections)

原 徹 (理化学研究所, SPring-8)

SPring-8の特色の一つに、4カ所の30 m 長直線部がある。現在は収束マグネットが設置されているが、将来マグネットフリーとして、30 mのスペースに挿入光源を自由に設置し、超高輝度領域の高い干渉性をもつ放射光を得ることが期待されている。昨年に引き続き今回2回目の本ワークショップは、97年8月9日神戸国際交流会館で開かれ、30 m 長直線部の可能性や利用法などについて前回より一層具体的な議論が交わされた。

ワークショップではまず、SPring-8 加速器グループの大熊氏(SPring-8)から、昨年からはじ

まったSPring-8 加速器コミッショニングとその成果についての報告があり、続いて田中氏(SPring-8)からは30 m 長直線部のマグネットフリーラティスの実現について発表があった。マグネットフリーへの移行時に、transientなラティスを一段階設ければ、よりスムーズに移行ができ、またその実現は充分可能であるとのことであった。

SPring-8 加速器の報告に続いて、挿入光源と自由電子レーザーに関するセッションに移った。P. Elleaume (ESRF)は、“Design Considerations for a 30 m long Insertion Device”と題して、